

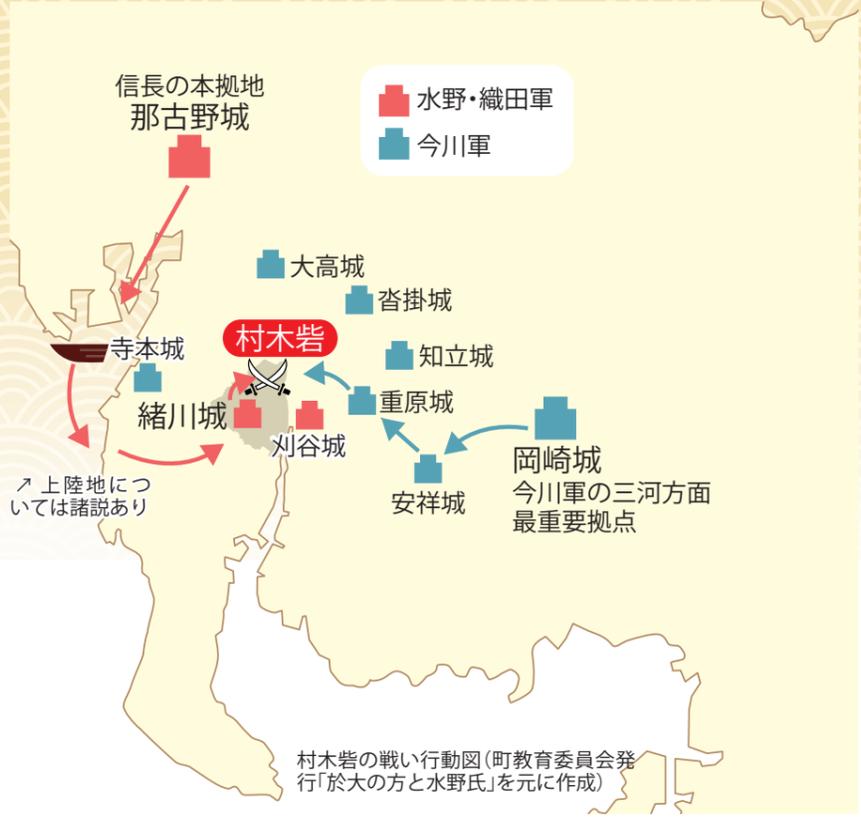


# 村木砦の戦い

信長が実戦で最初に  
鉄砲を使った戦い

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」第14回で、戦国時代に東浦町であった「村木砦の戦い」が放映される予定

郷土資料館(うのはな館) ☎82-1188



村木砦の戦い行動図(町教育委員会発行「於大の方と水野氏」を元に作成)



緒川城址…水野貞守が文明年間(1469~86)に築城したと伝えられ、忠政や信元ら水野氏の居城になった。城址内に、家康の生母伝通院於大出生地の碑が建っている。現在は主郭の北西部の土塁が残されているのみである。

- ①飯喰場…村木砦の戦い後、信長が兵士たちに言葉をかけ、祝いの酒盛りをした場所と伝えられる。
- ②村木神社…信長が本陣とした天王社。大正2年に八幡社を合祀し、村木神社と名を変えた。



③八剱社…村木砦の戦いの死者を祀るため、信元の家臣清水家重が1571年に村木砦跡に建立した。



火縄銃…  
銘:藤巻二重張芝辻甚三郎花押(江戸初期 新城市設案原歴史資料館所蔵)  
信長が使った鉄砲は、1543(天文12)年にヨーロッパから伝来したとされる「火縄銃」でした。筒の先端から火薬と玉を込め、手元の火皿に盛った火薬に火縄で点火して発射しました。この銃は、戦国時代の雰囲気の色濃く残っています。

大きな深い堀がある堅い守りでした。信長は、攻めにくい南の大堀からの攻撃を受け持ち、堀端で鉄砲<sup>※4</sup>を取替えながら撃ち放ちました。これがはじめて実戦で鉄砲を使った時と言われています。若武者たちは、我も我もと砦の堀に登って突き落とされ、また登って砦を攻めました。西は叔父の織田信光、東は水野の軍が攻めました。

村木砦跡は、現在の東浦町森岡字取手にあります。1554年(天文23年)1月24日、織田信長と緒川城(緒川古城)城主の水野氏の連合軍が、今川義元の軍勢が守る村木砦を攻撃したのです。

信長が今川義元を撃破した桶狭間の戦い(1560年)の前にあったこの戦いを、最も古く信頼できる史料である信長の家臣太田牛一が書いた「信長公記」<sup>※1</sup>という本からご紹介します。

**水野信元**  
織田信長に助けを求める駿府(静岡県)の今川義元は京都方面に勢力を伸ばし、岡崎城(岡崎市)を拠点に重原城(刈谷市)、沓掛城(豊明市)、鳴海城(名古屋市中区)を取り込んで、緒川城も攻略しようと勝手に村木砦をつくり軍勢を置きました。寺本城(知多市)も今川方に寝返ったので、緒川城は同盟関係にある那古野城(名古屋市中区)の信長と完全に分断されました。

た。この危機に、1553年(天文22年)刈谷城と緒川城の城主水野信元(徳川家康の生母於大の方の兄)は、信長に救援を求めました。

**信長、救援に向かう**  
信長は家督を継いで数年数え年<sup>※2</sup>21歳でした。隣の清須城(清須市)守護代の織田信友と領地内で争っていたため、城を空ければ攻め込まれると考へて、舅<sup>しゅうと</sup>である美濃(岐阜県)の斎藤道三に、留守を守る軍勢を頼んでから、1554年(天文23年)1月に出陣しました。21日熱田に一泊し、22日ひどい大風で船頭が止めるなか船を出させ、1時間程度で知多半島に到着。23日に緒川城に入り、信元に砦の状況を聞きました。

**村木砦の戦い**  
1月24日、信長と水野の連合軍は夜明けとともに出陣し、砦の今川軍を攻めました。砦は、大きさ東西250m南北200mほどで、北は崖、東は海、南は

「すさまじき男、隣にはいやなる人にて候よ」おどろくべき男だ。隣国に居てはいやな人だな」と言ったといひます。

**戦後**  
翌25日、信長は今川に寝返った寺本城に手勢をやって城のふもとに火を放たせ、那古野城に戻りました。この話を聞いた斎藤道三は、「すさまじき男、隣にはいやなる人にて候よ」おどろくべき男だ。隣国に居てはいやな人だな」と言ったといひます。

※1: 角川日本古典文庫「信長公記」より  
※2: 当時は、生まれた時が1歳、正月のたびに1歳ずつ加えた数え年という年齢を使っていた。  
※3: 妻の父  
※4: 当時は火縄銃。一度打つと銃身の掃除や玉込めなどに数分はかかるため、銃を取替えながら撃つていると思われる。



村木砦の戦いの地を訪ねるコース